

脳下垂体前葉移行細胞(分化性嫌細胞)

腺腫の一部検例

岡山大学医学部病理学教室(指導 浜崎教授)

稲本喜治

脳下垂体前葉腺腫は実質細胞の種類により主細胞腺腫, 移行細胞腺腫, 好塩基性細胞腺腫, 好酸性細胞腺腫等に分類される。視覚障礙, 肥満, 性欲減退を主訴とし本学陣内外科に入院, 腺腫摘出後不幸死の転帰をとつた患者に於て剖検の結果一部移行細胞一部好酸性細胞よりなれる腺腫の所見を呈せるを知り此所に報告する。

患者 柏○利○ 44才 公吏

既往症 著患をしらず。

血族的関係 母胃痛にて死亡。

現症状 昭和22年3月頃から何等誘因なく視覚障礙, 多尿, 時に頭痛を来たし医療を受けたが軽快せず, 漸次視覚障礙は増悪し昭和23年8月頃から視野狭小, 肥満, 及び性欲の減退を訴へ昭和23年10月14日本学陣内外科を訪れた。

当時患者は体格中等, 栄養良好, 皮下脂肪組織は過剰に發育し頭蓋変形なく動眼神経, 外旋神經等の障礙はなかつた。瞳孔正円同大, 対光反応右若干遲鈍, 瞳孔稍々散大し, 鼻唇溝右側は左側に比し稍々下方に存し, 舌右半若干萎縮する。胸部著変なく腹部稍々膨満するが肝脾を触れない。膝蓋腱反射右側稍々亢進, 足指搦なく二頭筋反射, 三頭筋反射, 拳拳筋反射尋常, 腹壁反射亢進, ロンベルグ氏症候陰性, 頭部X線所見, トルコ鞍後床の破壊を認める。10月22日脳下垂体腫瘍の疑にて手術施行。10月23日死亡した。

病理解剖所見(剖検番号1054)

脂肪肥満の一男性屍。頭部有髪部に於て前頭部正中線上から右側耳上部にかけて穿顱創が認められる。

腹腔概観 皮下脂肪組織發育甚だ著しく臍

部に於てその厚さ1.5糎筋層はむしろ菲薄である。腹膜平滑湿潤。胃腸管はガスを以つて強く膨満してある。腸間膜は甚だ厚く脂肪組織の發育極めて著明である。

胸腔概観 両側肋膜腔に橙黄色透明の液少量を認める左側後下部に於て纖維素性癒着軽度に存す。胸腺の脂肪沈着著明で実質を認め得ない。心嚢を開くに内面平滑心臓摘出に際して凝血を混じた流動性の血液を中等量に出す。

心臓 340瓦手拳の約二倍大。周径26糎心外膜下脂肪組織發育良好右心房稍々著明に拡大し内面平滑, 右室内柱乳嘴筋の發育尋常筋層の厚さ約6糎三尖弁の邊緣の一部軽度に肥厚。右室稍々拡大し一部心外膜下脂肪組織の筋層への侵入を見る。左心房著明に拡大内面平滑左心室筋層の厚さ約1.5糎肉柱乳嘴筋の發育良好にして稍々著明に拡大す筋層の一部に脂肪組織の侵入を見る。二尖弁の邊緣一部肥厚する。大動脈弾力性良好なるも一部, アテローム状に肥厚してある。

肺臓 左肺形態尋常, 色暗紫紅色にして炭末沈着中等度, 圧するに下葉稍々硬く切割するに割面色暗赤褐色にして加圧により上葉は泡沫を混じた液稍々多量に出すも下葉殆んど之を見ない。右肺形態尋常色左肺に同じで加圧するに圧窩を残し切割するに泡沫を混じた液少量を出す。

脾臓 色淡黄色, 表面に多数の皺を有す。硬度軟, 切割するに割面色暗紫紅色割面を擦過するに脾臓粥を多量に出す。

肝臓 980瓦, 色淡黄紅色, 硬度稍々軟, 切面淡黄綠色, 細葉の像不明瞭。

胃 粘膜に於て毛細血管の充盈せるを見

る。

腸 小腸大腸共に一般に濾胞肥大す。

腎臓 左腎 150 瓦，脂肪囊發育極めて良好，纖維膜剝離に際して一部腎表面物質缺損を来たす。星芒静脈稍々怒張し一部に於ては極めて著明で瀰漫性に暗赤色を呈する部がある。割面稍々膨隆し色黄紅色，皮質髓質の界不明瞭，皮質の厚さ約 0.4 糎左副腎髓質稍肥大す。

右腎 120 瓦左腎と同様の所見を認める。

脳 頭部皮下脂肪組織の發育極めて著明にしてその厚さ約 0.5 糎，穿顱に際する出血のために骨膜下に多量の出血を見る。トルコ鞍の左側は前床状突起から鞍背にかけて腫瘍により破壊され葡萄状をなせる腫瘍の一部が頭蓋底からはみ出ている。大脳底に於て脳下垂体の部に一致して小児手拳大の腫瘍あり色暗赤褐色にして一部手術により切除されており腫瘍の下面後部は更に小鶏卵大の腫瘤あり。その表面凹凸不平で一部葡萄状をなし，硬軟不定にして脆弱，色暗黒赤色乃至鮮紅色，一部に胞嚢を形成し淡黄色の内容を充す。腫瘍の周囲には手術による出血が著明である。脳神経中嗅神経視神経は腫瘍中に全く埋没されている。

其の他の臓器に著変を認めない。

病理組織像

心臓 心外膜下脂肪組織は著明に増加し心筋間質にも侵入する。心筋纖維に褐色，萎縮及び好塩基性変性を認める。

肺臓 肺胞隔肥厚していて漏出性出血著明。肺胞内に単核球，中性嗜好性白血球，組織球等の浸潤が見られ加答兒性肺炎を伴っている。

脾臓 被膜は纖維性に肥厚し脾柱も又肥厚する。白髓著明に萎縮，中心動脈壁は硝子様に変化する。赤髓の網状織増殖し腫大せる網状織細胞，内皮細胞，多数の脾臓細胞，プラズマ細胞等が見られる脾臓一般に鬱血性である。

肝臓 細葉中心性脂肪化あり，肝細胞の離開，細葉邊緣部肝細胞の代償性肥大を認め

る。

脾臓 死後変化強く詳細不明。

胃及び小腸 粘膜萎縮

腎臓 慢性糸球体腎炎の所見がある。

副腎 皮質は所々肥大し結節形成あり。髓質も肥大が見られるが死後変化が稍々強い。

甲状腺 濾胞は小形のもの多くコロイド質は濃厚であつて上皮細胞は増殖してゐる。

睾丸 精上皮は萎縮し各種精細胞を認め得るが細胞は粗に存し淋巴球浸潤あり精虫は見られない。間細胞は減少して褐色萎縮に陥る。

脳 軟脳膜浮腫状に肥厚し皮質髓質には瀰漫性に神経質細胞が増加してゐる。側脳下部では Virchow-Robin の腔が拡大して神経膠質細胞の瀰漫性増殖がある。

腫瘍 実質細胞は小さい多角形を呈し弱好塩基性で顆粒状の原形質を有す。原形質は一般に乏しいが主細胞よりは多く一部ではやゝ多量に存し移行細胞に一致するものがあり，稀れに原形質が好酸性顆粒状に現れるものがある。基質は殆ど血管網からなり結締組織は少ない。実質細胞は血管の網眼中に濾胞状に配列されるが腔は認められない。基質の毛細血管壁と実質は直接相接して内分泌腺特有な構造を示して居る。尙腫瘍組織の所々に小出血が認められる。

總 括

脳下垂体前葉細胞の種類に関しては従来嫌色性細胞，好酸性細胞及び好塩基性細胞等を単に分泌機能相の相異に過ぎずとする一元説と此等を異種細胞なりとする多元説とあり Benda, Guerrini 等は一元説を支持し Flesch, Lothringer 等は顆粒の酸及び塩基に対する嗜好性が細胞の本質的差異を指示するとなす。E. J. Kraus は成人脳下垂体前葉には凡そ 4 種の細胞が区別されるとなす。即個体発生上最も初期の細胞は一定の配列を好んで示す所の細長い紡錘形の細胞で Foetalezellen 称してゐる。此の細胞から主細胞を経て一部は好酸性細胞に一部は移行細胞を経て好塩基性細胞

に發育進行するとしておる。Foetalezellen から主細胞を経て移行細胞に到るまでは細胞内に顆粒はなく主細胞と移行細胞の差異は著明でなく細胞の境界の明彩度及び細胞の大きさが両者を区別する根拠であるとする。好塩基性細胞と好酸性細胞の間に移行なく、又生理的にも顆粒の消失は常に見られると云ふ。故に顆粒を中心に分類すると前記4種の細胞の間には移行型を示す細胞が挿入されて来る。田部教授は脳下垂体前葉細胞を未分化性嫌細胞、分化性嫌細胞、好酸性細胞、好塩基性細胞の4種の細胞を区別し各々の細胞は独自の機能を営み、互に移行する事はないと主張した。此の分類に依ると従来に移行細胞は分化性嫌細胞に相当するものの様である。又同教授は顆粒の状態を顆粒未分化期、成生期、静止期、融解期、活動期、変性期の6期に分けて居る。脳下垂体前葉腺腫は周知の如く實質細胞が如何なる種類の細胞に属するか依り種々に分類される。そこで本例の腫瘍は移行細胞(分化性嫌細胞)腺腫と考へられる。

腫瘍発生の位置的關係を見ると局在性のものは比較的規則正しく主細胞及び移行細胞腺腫は脳下垂体の外套層に、好酸性細胞腺腫は中心部に好塩基性細胞腺腫は後限界部に好発すると云ふ。又嫌色性細胞腺腫と好色性細胞腺腫の発生頻度の比は3対1で前者が頻発する。又男女両性に於ける脳下垂体前葉腺腫の発生頻度は凡同率で男女差は認められない。Russell T. Costello が何等脳下垂体前葉腺腫を思はせる症状を生前示さなかつた1000名の屍体の脳下垂体を検して225例の腺腫を見出し之を組織学的に検したるに嫌色性細胞腺腫53%、好酸性細胞腺腫7.5%好塩基性細胞腺腫27%混細胞腺腫12.5%であつた。Russell T. Costello の報告例中好酸性細胞腺腫が比較的少数であるのは該腫瘍が増殖が早く又症状も早く出るため此等の剖検例より除外されたためであろう。本例の腺腫は剖検の結果移行細胞、分化性嫌細胞腺腫と考へられ臨床上腫瘍の圧迫による視力障礙及び脳下垂体機能減退による脂肪肥満性減退を主訴とした症例である。

文 献

- | | |
|---|--|
| 1) 田部 浩 日本病理学会会誌第25巻602, 1935 | 1936 |
| 2) 所 安夫 癌 第31巻3号1937 | 5) F. K. Redlich Wien Arch f. inn. Med. 30
111-126 1938 |
| 3) 岡本良三 慶応医学 第10巻8号 | 6) R. A. Willis M. J. Australia 1:287-291, 1938 |
| 4) Russeil T. Costello. Amer. J. Path, 12 Nr2 | |

附 圖 説 明

脳底中央部には脳下垂体の巨大な腫瘍を認め右側前頭葉下面に宏汎な出血を認める。